

感染症の予防のための情報提供について

【日本脳炎にご注意ください】

日本脳炎ウイルスは豚の体内で増殖し、蚊（コガタアカイエカ）を媒介して人に感染します。（日本脳炎ウイルスは人から人へは感染しません。）

三重県では、日本脳炎ウイルスの活動状況を把握するため、毎年初夏から初秋にかけて豚の抗体検査を実施しています。（厚生労働省協力事業）

今回、調査した豚の抗体保有率が注意報レベル*を超えたことにより、感染予防等のため、注意喚起いたします。

蚊にさされないように気をつけましょう。特に屋外や豚の多い場所や水田、沼地の周辺（コガタアカイエカが発生する場所）は注意してください。

※調査した豚の日本脳炎に対するH I 抗体陽性率が50%を超え、かつ2-ME感受性抗体（I g M抗体）を検出。

- ・ H I 抗体陽性：過去も含め、日本脳炎ウイルスに感染したことを示す指標。
- ・ 2-ME感受性抗体陽性：最近、日本脳炎ウイルスに感染したことを示す指標。

【今年度の検査結果】

	採血日	検査頭数	H I 抗体陽性頭数	2-ME感受性抗体陽性頭数
1	7月21日	10	0	0
2	7月28日	10	0	0
3	8月3日	10	1	1
4	8月10日	10	1	1
5	8月18日	10	2	1
6	8月24日	10	0	0
7	9月6日	10	5	0
8	9月22日	10	8	2

（過去の注意喚起歴）

令和4年（8月24日）令和2年（9月2日）、令和元年（9月26日）、平成29年（9月8日）、平成27年（7月31日）、平成21年（8月24日）、平成20年（7月16日）、平成19年（9月5日）、平成18年（9月6日）、平成17年（8月5日）

【日本脳炎の症状】

感染しても症状が現れずに経過する場合はほとんどですが、およそ100人から1,000人に1人程度発病する場合があります。発病した場合20から40%が死に至るといわれています。症状が出る場合、6日間から16日間の潜伏期間後、数日間の高熱、頭痛、嘔吐などが現れ、引き続き、光への過敏症、意識障害、けいれんなどの中枢神経障害を生じます。

【予防接種】

日本脳炎は予防接種により罹患（りかん）リスクを減らすことができるとされており、予防接種法に基づく定期接種の対象となっています。

○第1期（3回）

初回接種（2回）：生後6月から生後90月に至るまでの間にある者

追加接種（1回）：初回接種終了後6月以上、標準的にはおおむね1年を経過した時期

○第2期（1回）：9歳以上13歳未満の者

【県民の皆さまへ】

1. 蚊に刺されないようにしましょう。
 - ・戸外へ出るときは、できる限り長袖、長ズボンを身に着けましょう。
 - ・露出している皮膚には、虫除けスプレーなどを使いましょう。
 - ・網戸を使用しましょう。（コガタアカイエカは「夜間吸血性」です。）
2. 蚊の発生を防ぐために、水たまり等をなくしましょう。
3. 日本脳炎ワクチンの定期接種を受けましょう。
4. 過労をさげ、十分な睡眠と栄養をとりましょう。

【三重県・全国における日本脳炎患者発生状況（令和5年9月17日時点）】

年	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
三重県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
全国	2	2	11	3	0	9	5	3	5	0※

※全国における発生数については、感染症発生動向調査の最新情報（9月11日～9月17日分）から計上しておりますが、その後、9月22日付けにて、熊本県から日本脳炎患者の発生についての資料提供がなされております。

詳しくは、熊本県ホームページをご確認ください。

<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/30/185269.html>

日本脳炎を含め、感染症に関する各種情報を三重県感染症情報センターのホームページで提供していますので、ご覧ください。（<https://www.kenkou.pref.mie.jp>）